

REBOK DX編
パターンNo.2
製品開発で訴求効果のある機能を作
りたい

2021年5月

JISA エンジニアリング部会 要求工学グループ

製品開発で訴求効果のある機能を作りたい (1/6)

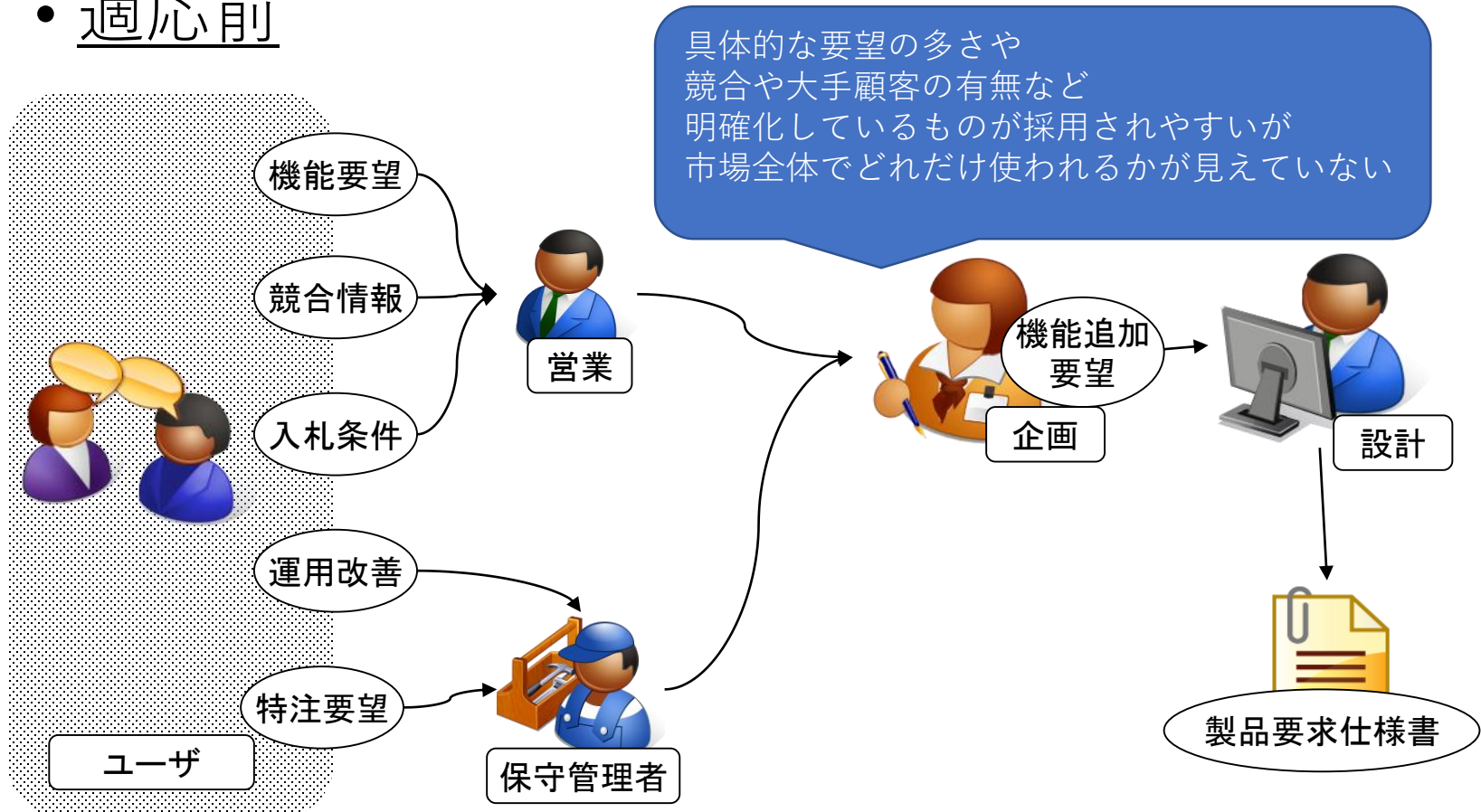
- 【タイトル】 製品開発で訴求効果のある機能を作りたい
- 【状況】 継続的な製品開発を行っていて、新しい機能を入れてより製品価値を向上させたい。
- 【問題】 いろいろな環境でいろいろな人が製品を使用しており、どんな環境で何の機能が使用されているかわからない。
顧客からのヒアリング結果を優先すると、要求に偏りが出る場合がある。
- 【問題が発生する理由】
従来型の要求定義ではユーザの要求を引き出す方法は多いが、直接声を届けられないユーザの要求を分析する方法が少ない。

製品開発で訴求効果のある機能を作りたい (2/6)

- **【解決策】** 実際に顧客環境で使用されている製品から利用状況を示すデータを収集可能にしておき、機能の利用率や使用しているソリューションなどを分析し、より訴求効果の高い機能がわかる。
- **【適用例】**
利用されている製品からセグメント毎(国別/ハイエンド・ローエンドなど)のソリューションや機能の利用率のデータを取得する。
そこから各セグメントの製品に対し有効な機能を分析しや要求全体の開発順番を決定する。

製品開発で訴求効果のある機能を作りたい (3/6)

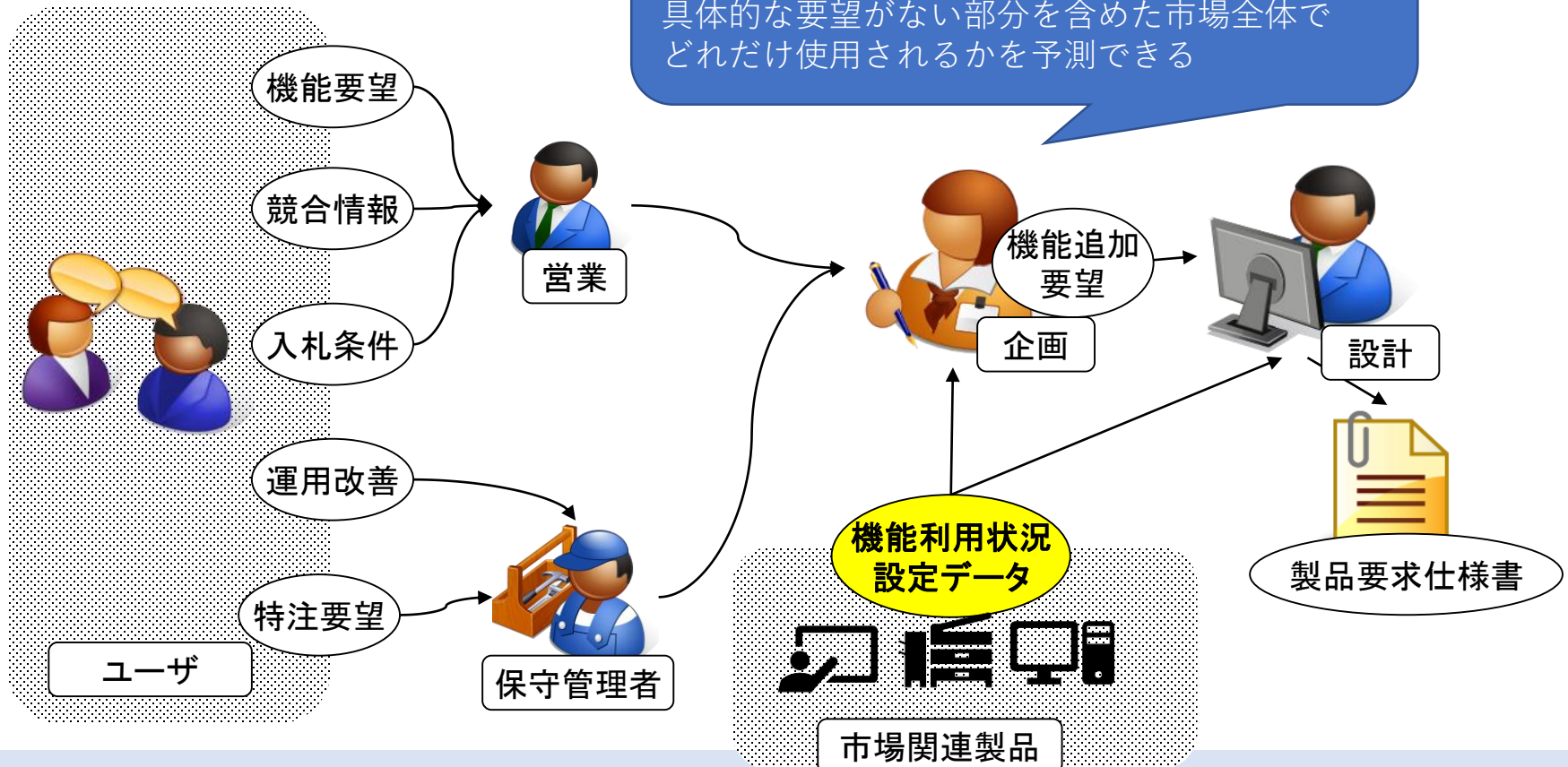
• 適応前



製品開発で訴求効果のある機能を作りたい (4/6)

• 適応後

製品の稼働状況や設定状況から
関連機能やソリューションの利用率を把握できると
具体的な要望がない部分を含めた市場全体で
どれだけ使用されるかを予測できる



製品開発で訴求効果のある機能 を作りたい (5/5)

・ 優先度をつけるケース

表3-1 製品開発計画の例

開発製品	セグメント	リリース時期	仕向け
製品1	ローエンド	2022/04	ASIA
製品2	ハイエンド	2023/04	世界共通

利用予測と製品開発計画から
必要な順番を決定することができる

表3-2 要求機能と利用予測の例

要求機能	市場関連製品数	有効セグメント	主な利用地域	開発順番
機能A	10000	ハイエンド	EU・US	2
機能B	8000	ローエンド	ASIA	1
機能C	3000	全体	全体	3

製品開発で訴求効果のある機能を作りたい (2/6)

- 【結果（期待効果）】

広範囲で多く使用されている機能やソリューションがわかり、利用率も把握できるため、要求の偏りがなくなる。

また、より効果的に機能の開発や要求の優先度付けが可能となる。

- 従来型の要求定義が、知情意の観点では、「知」と「情」方向に強化される

- 【参考文献】なし